

平成 23 年 3 月 11 日～3 月 31 日（東日本大震災発生以降）にモニタリングポストで測定された空間線量率等の測定結果について【概要】

平成 24 年 9 月 21 日
福島県生活環境部原子力安全対策課
東京電力(株)福島第一原子力発電所
東京電力(株)福島第二原子力発電所

福島県、東京電力(株)福島第一原子力発電所（以下「福島第一」という。）及び東京電力(株)福島第二原子力発電所（以下「福島第二」という。）では、環境放射能監視テレメータシステム（原子力発電所周辺に設置したモニタリングポストの測定データを専用回線で収集し、常時監視するシステム）を用いて原子力発電所からの影響を監視してきましたが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響を受け、通信回線の断線、電源喪失、津波によるモニタリングポスト流失等が生じました。

これらの影響により、震災当初、福島県ではテレメータシステムによるデータ収集が出来なくなったことから、各モニタリングポストに残存している測定データの回収を行い、確認を終えたデータから公表してきましたが、このたび、福島県のテレメータシステムを構成する全てのモニタリングポストに残存していた空間線量率測定データを回収し、3 月分のとりまとめが終了しましたので、同時期に福島県、福島第一、福島第二で実施していた空間積算線量の結果等と併せてお知らせします。

なお、福島第一では、震災の影響でテレメータシステムによる空間線量率の監視やモニタリングポストからのデータ回収は出来ませんでした。福島第二では、震災や更新工事の影響で一部のデータに欠測が生じているものの、テレメータシステムによる監視が継続して行われました。

記

1 測定結果

空間線量率及び環境試料（降下物）の放射性核種分析の結果、原子力災害の影響と考えられる空間線量率の上昇や環境試料から高濃度のセシウム-137 等の人工放射性核種が観測されました。

（1）空間放射線

福島県（25 地点）及び福島第二（7 地点）で空間線量率を常時測定した結果、過去の最大値を大きく上回る値が複数地点で観測され、1 時間値の最大値は $1,590 \mu\text{Gy}/\text{h}$ （双葉町上羽鳥）でした。（別紙参照）

（2）空間積算線量

福島県（15 地点）、福島第一（16 地点）及び福島第二（13 地点）で蛍光ガラス線量計により空間積算線量を測定した結果、過去の最大値を大きく上回る値が観測され、最大値は $312\text{mGy}/90 \text{日}$ （福島第一MP 7）でした。

（3）降下物（ガンマ線放出核種）

福島県（3 地点）が降下物のガンマ線放出核種の測定を行った結果、過去の最大値を超えるセシウム-137 等の人工放射性核種が検出され、セシウム-137 の最大値は $560 \text{万MBq}/\text{km}^2$ （大熊町大野）でした。

2 今後の予定

平成 23 年度においても、同様な調査を行っていることから、取りまとめ次第公表する予定です。